



西ノ京

学校教育目標 「心豊かでしなやかに 生きる力 を育成する」

京都市立西ノ京中学校
学校だより ⑫
令和4年(2022)3月18日
校長 藤井 泉



第73回 卒業証書授与式

3月15日(火),暖かな春の日差しの中,令和3年度西ノ京中学校第73回卒業証書授与式を挙行いたしました。

昨年度同様,参列者を制限したり,通常の様次第をかえて時間短縮を図ったりしながらではございましたが,厳かで温かな雰囲気の中での式となりました。皆様には,三年生代表生徒による答辞をご紹介して,卒業証書授与式の報告とさせていただきます。



答辞

長く厳しかった冬もようやく終わりを告げ,春の訪れを感じる今日,私たち三年生百十三名は,この西ノ京中学校を卒業します。こうして卒業式を迎えた今,ふと瞳を閉じると西ノ京中学校で過ごした三年間の思い出が心の中に次々と浮かんできます。

三年前の春,まだ着慣れない制服に身にまとい,中学校生活に不安と期待を抱きながら,新たな目標を心に刻み,入学式を迎えました。

一年生の頃は,全てが初めてのことばかりでした。嵯峨,嵐山への校外学習は,班で話し合って計画を立てました。目的地へと歩く中で,新しい友達と仲を深めることができました。初めての文化祭。声がかれるほど練習した合唱コンクール。みんなで歌うことの楽しさを実感しました。本番で歌い終わったときの感動は今でも忘れられません。

休校から始まった二年生。チャレンジ体験もなくなり,部活動にもいろいろと制限ができました。感染症への不安や「先輩」になることへの責任に押しつぶされそうな日もありました。それでも,クラス替えを経て,分散登校から始まった新しいクラス。新たな友達との出会いで,心が安らぎ,笑顔になれました。「みんなに会いたいから学校に行く」という日もありました。私たちは,制限された厳しい状況を体験したからこそ,友達の大切さに気づくことができました。

そして時は過ぎ,私たちは三年生になりました。「西ノ京

中学校の今までの伝統を受け継ぎ,よりいっそう実のある伝統を築いていこう」そんな思いを胸に抱いていました。夏には部活動最後の時を迎え,共に練習に励んできた仲間と最後の大会に挑みました。ここまでの二年半,何度も壁にぶつかりましたが,仲間と励まし合えたからこそ,乗り越えることができ,一生忘れられない思い出ができました。夏休み前から取り組んできた総合学習。広島や岡山の魅力。原爆や戦争の悲惨さをパワーポイントや劇,ステンドグラスの作品で表現しました。その中で,みんなで考えた「平和宣言」「今ある平和は決して当たり前にあるものではない。笑顔があふれ,共に学べる,この幸せな日々を守っていくのは私たちだ」今まさに,この願いを忘れてはならないと思います。また,何度も延期され,行けるかどうか不安だった修学旅行。行き先も変更になりましたが,「どこに行くか」ではなく,「誰と行くか」「どう楽しむか」ということが大切だという思いを心に,全員で楽しむことができました。みんなで盛り上がったレクリエーション。壮大さに圧倒された黒部ダム。雲一つない晴天の中でのラフティング。心をつにしてミッションをクリアしたEXアドベンチャー。時間が足りないと思うほど楽しかったナガシマスパーランド。どれも忘れられない大切な思い出です。五ヵ月もの延期があった分,感動も大きく,変更の度に予定を組みなおしてくださった先生方への感謝も大きなものとなりました。

体育祭に代えて初めて行われた体育レクリエーション大会。クラスで団結したフライシートリレー。口では言い表せないようなドキドキ感で,青春を感じた借り人競争。全力で戦った紅白ボール合戦。みんなで考え,創り出したこの大会は,クラスの友達と協力し,最高に盛り上がりました。こうして中学校生活最後の行事は私たちにしかできない形で行うことができました。

つらく厳しい寒さの冬。初めて自分の進路について大きな決断をするときがやってきました。時には自信をなくし,





あきらめようとしたこともありました。そんなとき、先生方や家族、友達からの強く、温かい言葉に助けられました。

今こうして三年間を振り返ってみると、本当に

多くのことを経験し、学ぶことができたとわかります。このような日々を送ることができたのも、たくさんの人たちの支えがあったからです。三年間、共に笑い、共に悩み、お互いを支え合ってきた友達。「今まで本当にありがとう。七十三期生でよかった」心の底からそう思えるみんなに出会えて本当に幸せでした。ここにいるみんなと過ごしてきたかけがえのない日々は、宝物となり、これから進むそれぞれの道で、心の支えとなるでしょう。西ノ京中学校で過ごした笑顔と拍手のあふれる三年間のことは、決して忘れません。

一番近くで私たちを支えてくれたお父さん、お母さん。家族の皆さん。私たちは、まだまだ未熟で心配をかけることがたくさんありました。時には、すべてわかったような気になって、ぶつかってしまうこともありました。それでも、私たちのことをいつでも一番に考えてくれていたことは、しっかりと伝わっています。

九年間の義務教育を終了し、これからは自分の意思で新たな道を進んでいきます。しっかりと自立し、歩んでいこうと思います。それでも、やはり悩んだり、立ち止まったりすることがあるでしょう。その時は、今までと変わらず、温かく見守って、私たちの背中を押してください。よろしくお願いします。

私たちを導いてくださった教職員の皆さん。勉強だけでなく、私たちに必要なことをたくさん教えてくださり、本当にありがとうございました。

私たちは自分でも気づかないうちに、たくさんの方々に支えられ、今日の卒業の日を迎えることができました。

私たちが一年生のとき、最後に学年で合唱をした「Hey 和」という歌にこんな歌詞がありました。「Hey 和 この地球(ほし)に生まれ僕らは出逢えた どこにいたって一人じゃないんだ 捨てない希望 守り続けてゆく」その言葉のとおり、皆さんからいただいた勇気を胸に、新しいステージに思いきり飛び込みたいと思います。

皆様のご健康と西ノ京中学校の益々のご発展をお祈りし、卒業の言葉といたします。

令和四年三月十五日 卒業生代表

★★★ はばたけ、未来へ ★★★

卒業生たちは、コロナ禍の中で、活動に制限が加わり、様々な取組が中止や変更となる状況でも、自分たちでしっかり考え、工夫をすることで、行事・部活動・生徒会活

動などに精一杯、取り組み、全力で盛り上げ、楽しんでいました。その姿は、見ている私たちに、たくさんの勇気や感動を与えてくれました。式辞の中で、私からは卒業生に、3つのお願いをしました。

一つめは、「夢や目標を持ち、それを叶えるための努力を続けること」です。これからの人生において、夢や希望を追いかけながら、壁にぶつかることがあるかもしれませんが、しかし、子どもたちには、自分の力を信じて、夢や目標に向かって一歩ずつ前進し、目標とする高みに自分を近づけるよう努力することを通して、充実感や達成感を味わいながら、大きく成長して欲しいと願います。

二つめは、「感謝の心を持つこと」です。いつも子どもの笑顔を喜び、苦しみや悲しみに心を痛み、ひたすらに健やかな成長を願っておられる保護者の皆様や、ご家族の皆様、また、共に笑ったり、泣いたり、考えたりしながら、共に学び、成長してきた仲間や後輩たち、成長を見守り支えてくれた地域の方々や先生方など、自分を支えてくれる人々への感謝の気持ちを大切にしたい、そして、自分自身も、誰かを支え、感謝される存在であるということに気付いて、自分も人も大切にできる人であって欲しいと思います。

三つめは、「学び続ける人であって欲しいということ」です。未来を生きる子どもたちには、「なぜそうなるのか?」「それはどういうことなのか?」ということを自分なりに問い続け、なぜその問題が起こるのか、どうすれば課題を解決できるのかということ、自分とは異なる立場の人の意見にも耳を傾け、折り合いを付けながら、よりよい解決策を見つけ出しながら、学びを積み重ねて欲しいと思います。こうした学びを通して、さまざまな角度から考える力や、何を選択すればよいのかを判断する力、周囲と対話をする力など、これからの社会を生きるために必要な力を身に付けてほしいと考えるからです。

卒業生の皆さんの輝かしい未来と活躍を心から祈念します。



◆◆◆◆◆ お知らせ ◆◆◆◆◆

★退職・離任教職員の発表は、3月23日(水)午後11:00に、校内掲示板および学校ホームページにて発表します。また、離任式は3月30日(水)11:00から、西ノ京中学校にて行います。

★始業日 4月6日(水)

8:35 クラス発表 着任式、始業式、学活など

令和3年度の「学校だより」はこれが最終号となります。一年間、本校の教育活動に賜りました温かいご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。至らぬこともあるかと存じますが、これかも、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。